Title	大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討:ポストコロナの情勢を見据えて
Sub Title	Review of the objectives and assessment of physical education in liberal arts higher education :
	looking ahead to a post-COVID situation
Author	村山, 光義(Murayama, Mitsuyoshi)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	2022
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によって遠隔授業が展開される中、身体活を中核とする体育実技の目的と評価に関して実態調査を行った。調査期間は2021年9月~11月であった。Web調査の内容は教養体育科目の開講状況,2020年度後期と2021年度前期の授業実施那とと実施理由、成績評価方法に関する従来の方針と遠隔授業による対応、等であり、有効回答数は31件(19.2%)であった。従来からの成績評価方法について、評価館点は出席、態度、技術、理解の4つに分類でき、それぞれに対応する代表的な評価方法は、川部回数、教員の観察、実技方、業配テストやレボート、等であった。教養体育の目的は各大学のデイブロマ・ボリシーによって異なるが、大多数の大学において体育実技は汎用的能力を含む態度の育成とスポーツ・運動に関わる技術と知識の獲得が評価の内容となっていた。しかし、その配点や方法は様々で各教員に要ねられているか、透明性は保たれているか等について更に検討が必要と考えられた。次に、COVID19による遠隔体育実技楽施は32人であり、での内24分が必要と考えられた。次に、COVID19による遠隔体育実技楽施は32人であり、その内24分が必要と考えられた。次に、COVID19による遠隔体育実技楽施は32人であり、その内24分が必要と考えられた。次に、COVID19による遠隔体育実技楽施は32人であり、その内24分が必要と考えられた。の対応をとっていた。その内容は、評価の観点、配分、方法を再構築した例が31.5%。従来の観点を評価するために実技課題・運動記録・規徳内容のレボートの提出等の補足的方法を加えた何対31.5%。なった。このことは、実技実施の制度から技術・総度(汎用能力)を従来の観え、従来の観が31.5%となった。このことは、実技変施の制度から技術・経度(汎用能力)を従来で観りないまが自然のよりに対しまないがでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に対しまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまでは、10分の表に大きないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな
Notes	申請種類:福澤基金研究補助
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-20210002

0005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度 福澤基金研究補助研究成果実績報告書

研究代表者	所属	体育研究所	職名	教授	補助額	500 =	千円
	氏名	村山 光義	氏名(英語)	Mitsuyoshi Murayama			113

研究課題 (日本語)

大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討 ―ポストコロナの情勢を見据えて―

研究課題 (英訳)

Review of the objectives and assessment of physical education in liberal arts higher education: looking ahead to a post-COVID situation

研究組織							
氏 名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position						
村山光義(Mitsuyoshi Murayama)	体育研究所·教授						
佐々木玲子(Reiko Sasaki)	体育研究所·教授						
奥山靜代(Shizuyo Okuyama)	体育研究所·准教授						
永田 直也 (Naoya Nagata)	体育研究所·専任講師						
福士 徳文 (Norifumi Fukushi)	体育研究所·専任講師						
稲見 崇孝 (Takayuki Inami)	体育研究所·専任講師						
東原 綾子 (Ayako Higashihara)	体育研究所·助教						
寺岡 英晋 (Eishin Teraoka)	体育研究所·助教						

1. 研究成果実績の概要

本研究は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によって遠隔授業が展開される中、身体活動を中核とする体育実技の目的と評価に関して実態調査を行った。調査期間は 2021 年 9 月~11 月であった。Web 調査の内容は教養体育科目の開講状況, 2020 年度後期と 2021 年度前期の授業実施形態と実施理由,成績評価方法に関する従来の方針と遠隔授業による対応,等であり、有効回答数は 131 件(19.2%)であった。従来からの成績評価方法について、評価観点は出席,態度,技術,理解の 4 つに分類でき,それぞれに対応する代表的な評価方法は、出席回数,教員の観察,実技テスト,筆記テストやレポート,等であった。教養体育の目的は各大学のディプロマ・ポリシーによって異なるが、大多数の大学において体育実技は汎用的能力を含む態度の育成とスポーツ・運動に関わる技術と知識の獲得が評価の内容となっていた。しかし,その配点や方法は様々で各教員に委ねられているケースが多かった。また,評価方法のバリエーションは多くはなく,各観点が適切に評価されているか,透明性は保たれているか等について更に検討が必要と考えられた。次に、COVID19 による遠隔体育実技実施は 83.2%であり、その内の 49.5%が成績評価方法に新たな対応をとっていた。その内容は、評価の観点、配分、方法を再構築した例が 31.5%、従来の観点を評価するために実技課題・運動記録・視聴内容のレポートの提出等の補足的方法を加えた例が 31.5%となった。このことは、実技実施の制限から技術・態度(汎用能力)を従来通り評価することが困難となったことを示すものと考えられ、従来のテスト・レポートに加えて様々な課題への取り組みが評価のために付加されたといえる。以上の内容は、全国大学体育連合関東支部との共催シンポジウム・同連合の研究フォーラムで議論と発表を行い、遠隔授業の経験を機に体育実技の目的を再確認し、その実施内容と評価方法を再検討する必要性があることを提示した。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

The present study examined the current situation concerning the objectives and assessment of physical education in liberal arts higher education in the context of remote classes being deployed due to the coronavirus pandemic (COVID-19). We surveyed from September to November 2021. The survey included the following questions: the status of physical education courses, the class formats and its reasons in the Fall semester of 2020 and the Spring semester of 2021, and the existing policy on grading methods and the response to remote classes. The number of valid responses was 131 (19.2%). Regarding the traditional grading methods, we could classify them into four categories: attendance, attitude, skills, and comprehension. The typical grading methods corresponding to each were the number of attendances, teacher observation, practical skill tests, and written tests and reports. Although the objectives of physical education varied according to the diploma policy of each university, most universities mentioned that the assessment contents were to develop attitudes, including versatile abilities, and acquire skills and knowledge related to sport and physical activity. However, in many cases, the distribution of grades and methods varied and were left to the individual teachers. The percentage of universities that implemented remote physical education classes was 83.2%, and 49.5% of them took some new approaches in their grading methods. These included 31.5% of cases that reviewed the perspectives, distribution, and methods, and 31.5% of cases that added supplementary procedures such as submitting reports on practical tasks, exercise records and video viewing content to assess the traditional perspectives. This result may indicate that it has become challenging to evaluate skills and attitudes (versatile abilities) due to the limitation of the implementation of practical lessons. Therefore, various tasks have been added for assessment in addition to the conventional tests and reports. The above was discussed and presented at a symposium jointly organized with the Kanto Branch of the Japanese Association of University Physical Education and Sports (JAUPES) and at the 10th research forum of the JAUPES. We showed the importance of taking the experience of remote classes as an opportunity to reconfirm the purpose of physical education and reconsider the content and grading methods of their administration.

3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
寺岡英晋	の授業目標と評価方法に関する実	慶應義塾大学体育研究所・公社) 全国大学体育連合関東支部共催 シンポジウム「オンライン(遠隔)体 育実技における成績評価を考え る」						
村山光義, 寺岡英晋, 永田直也, 東原綾子, 福士徳文, 稲見崇孝, 奥山静代, 佐々木玲子	コロナ禍における大学体育実技の 成績評価方法に関する実態調査	第 10 回大学体育スポーツ研究フォーラム	2022 年 3 月					